

～政府全体が一体で更なる観光資源に！～

= 政府の「重点公的施設」に登録 =

“神威岬灯台”

全国の灯台で初の選定

6月12日の「観光立国推進関係閣僚会議」（主宰：内閣総理大臣、構成：全閣僚）で、「地域振興に資する観光を通じたインフラの活用」の重点公的施設・インフラ登録に、全国3カ所の灯台の一つとして「神威岬灯台」が決定しました。

この政府の決定は、観光資源として特にポテンシャルの高い、ダムや橋、港湾など、全国の重要公的施設107カ所の中で『灯台』が初めて、全国3カ所（神威岬（積丹町）、チキウ岬（室蘭市）、石垣御神埼（沖縄県））が選ばれました。

この町史に残る吉報は、国土交通省海上保安庁交通部君塚企画課長から松井町長へ、小樽海上保安部大谷交通課長から山崎商工観光課長へ電話で第一報が入りました。

海上保安庁では、この『灯台』初の登録決定を受けて、地域の観光資源としての新たな活用や取組の検討を始めるため、町や町内産業経済団体と緊密に連携していきたいとしています。

今年、神威岬灯台点灯130周年を迎え、昨年の恋する灯台認定と今回の政府の新たな施策の決定が、今後の当町の観光振興にさらに活かしていくための創意工夫に町をあげて取組み、町の振興と地域の活性化に役立てていきます。

～積丹町の活性化を目指して～

札幌大谷大学と社会連携協定

町と札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部との社会連携に関する協定調印式が、6月5日、高橋肇学長や大学関係者、町議会議員、町内関係団体長が出席し、総合文化センターで行われました。

同大学とは、これまで当町の冬季観光体験メニュー開発や町内の行事やイベントへの参加・協力などに共に取り組んできたことから、今回、連携協定を締結することになりました。

今後は、同大学の地域振興・音楽・美術・幼児教育など特色のある資源や、当町の多様な地域資源を相互に活かし、人口減少による様々な課題克服への取組を行うなど、大学と連携した人材育成や地域資源の発掘、地域の活性化に役立てていきます。



▲高橋学長（左）と松井町長（右）



第27回



祭り

北と南の絆、更に固く！
 合同チームが迫力の演舞を披露
 法光院市長が来町

北海道の初夏の風物詩「第27回YOSAKOIソーラン祭り」に、約2万8千人の参加者の一員として、今年も姉妹都市の高知県香美市との合同チーム「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」が、6月9日・10日の2日間にわたり参加しました。積丹町の2歳から77歳までの36名と香美市からの26名の総勢62名がソーラン節と鳴子の乾いた音を響かせ、また今年は、2本のフラフ（旗）を振りながら、札幌市内の5会場で息の合った演舞を披露し、交流の健在をアピールしました。

今回は、法光院晶一香美市長を団長として小松紀夫同市議会議員など訪問団8名も来町され、両市町の友情と更なる交流の発展を確かめました。

今回のYOSAKOIソーラン祭りをはじめ、相互のイベント訪問や両市町の児童による相互交流など北と南の絆がますます深まっています。今後も両市町民の交流の輪を広げていきましょう。

